

XI 関係団体ヒアリング調査

I 調査の目的

本調査は、子育てに関する取り組みを実施するまたは支援する団体などを対象に、播磨町のこども・若者、子育て家庭を取り巻く課題や取り組み状況等についてお伺いし、令和7年度より開始される「播磨町こども計画」策定の基礎資料とするとともに、今後の町としての支援・施策に役立てることを目的として行いました。

2 対象団体

令和6年7月に調査票を送付・回収したうえで、7月下旬～8月上旬に11の団体に直接の聞き取り調査を実施しました。

ヒアリングシートについて、22の団体から回答を得ました。

■対象団体

福祉・教育関係機関	西部コミュニティ委員会、野添コミュニティ委員会、南部コミュニティ委員会、スポーツクラブはりま21、播磨町立図書館、播磨町中央公民館、播磨町民生委員・児童委員協議会、社会福祉協議会
子育て関係機関	北部子育て支援センター、南部子育て支援センター、学童保育所（高砂キッズ・スペース）、スクールソーシャルワーカー（播磨中学校・播磨南中学校）
福祉相談窓口	播磨町福祉会館 総合相談窓口
子育て支援団体	パパぱれっと、てるてるはりま、のぞえプレーパーク のこのこ、まちの居場所 はりまある、コミュニティカフェ parasol、ワーカーズコープセンター事業団、モグモグ播磨、ういっくす播磨

3 実施方法

令和6年7月に調査票を送付・回収したうえで、7月下旬～8月上旬に11の団体に直接の聞き取り調査を実施しました。

■聞き取り調査実施団体

てるてるはりま、スクールソーシャルワーカー（播磨中学校・播磨南中学校）、ワーカーズコープ、高砂キッズ・スペース、ういっくす播磨、まちの居場所はりまある、コミュニティカフェ parasol、野添コミュニティセンター、のこのこ、中央公民館

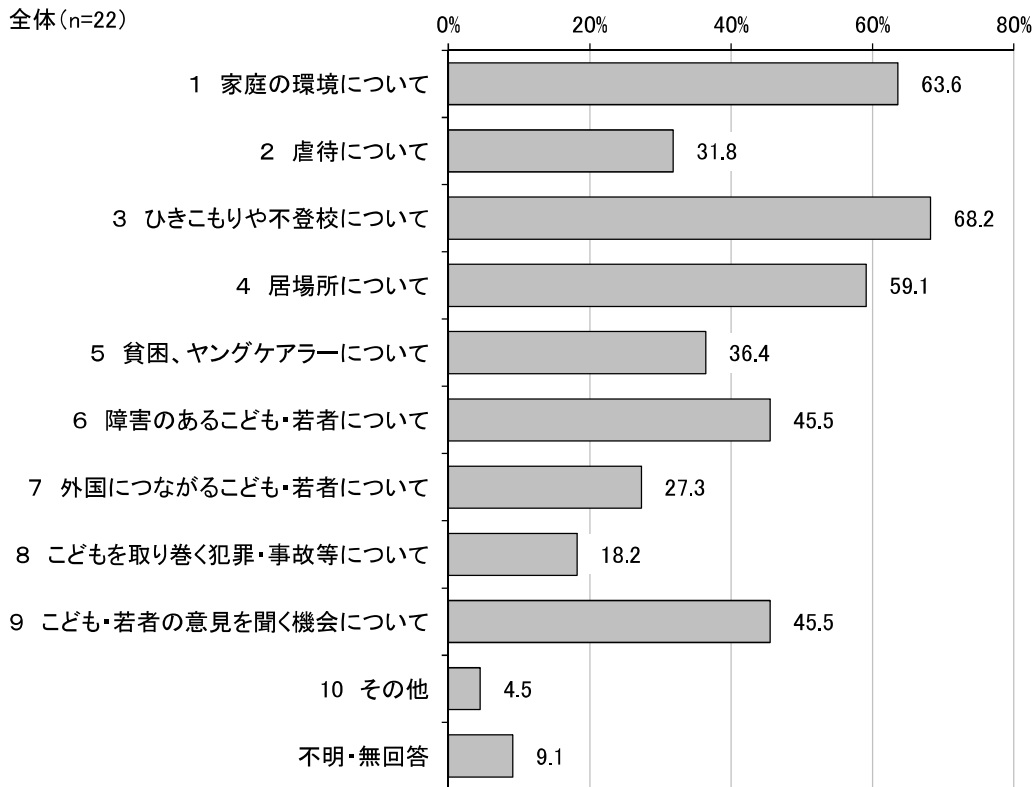
4 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

5 調査結果

問2 播磨町の子ども・若者、子育て家庭を取り巻く課題について、日頃の活動を通じて、気になっていることがあれば教えてください。(あてはまるものすべてに○)

「ひきこもりや不登校について」が最も多く、次いで「家庭の環境について」となっています。



具体的な事例等

日本ではまだまだ子育て＝母親の仕事という概念が自他共に根強く、核家族化や女性の社会進出等も相まって「母親」が1人で子育てを抱え込む環境から脱却できていない。特に播磨町は子育て世代の転入者も多いうえ、昔ながらの風潮が根強く残っていて馴染みづらく、地域での支え合いの構図（自治会等）もうまくいっておらず、行政と地域等の連携もできていないと言えない（解決できる場がなくなるとらい回しにされる）ように思う。

母親自身が抱え込むことで、鬱や虐待にも繋がり、子どもにとっても母親ひいては地域にとってもマイナスな事象が起こることを懸念しており、子育て中の方が気軽に子どもを預ける「仕組み」と「空気」をつくってけると良いと考える。保育園を増やすことだけが子育て支援ではない。

貧困、ヤングケアラーの問題は表面化しないため、判断するのは難しいと感じる。

図書館では、子どもを含む利用者の課題について直接関わることはほぼないが、そのため、出来ることとすれば図書館はどなたでも利用できる、受け入れる場所であることだと思っている。

全国の図書館で共通する課題として、小学校高学年～高校生世代の利用が少ないという事があげられ、図書館利用に限らず、今の子ども・若者の意見は気になる。

具体的な事例等

今年度、公民館の1階ロビー全体をフリースペースとして開放し、自由に活用してもらえるよう整備した。認知が薄いという課題があるが、21時まで勉強する高校生や、6月の期末試験前には中学生が毎日のように放課後來館している。居場所としての需要を感じる一方で、事務所から一番離れた座席を好み、スタッフに干渉されたくないような空気を醸している。公民館としてはユース世代の意見を直接聞けずにいる。

構内でのいじめ、子ども同士の喧嘩、親が我が子に無頓着、学校での出来事は学校で対処するのが当たり前な考えを持つ親、小学生で髪の毛を染めた子、毎回問題を起こす子どもが各学級、各学校に1人～2人はいると聞いている。先生も大変だと思う。児童委員として、何も出来ない。近所のうるさい“おっさん、おばさん”は、今では通報される対象で、声も掛けられないのが現状だと思う。

貧困・ヤングケラーに関連して、昨年度、コロナ禍の特例貸付対象者へ食料品の配布を個別に案内し、その対象世帯に子どもがいる世帯も多かったことがある。この食料品配布の本来の目的は『配布を通じて困り事がないかを把握すること』であったが、反応が薄い感が否めなかった。初年度だからかもしれないが、『困っている』という声をあげにくいとも考えられるため、より一歩踏み込んだアウトリーチが必要と感じるものの、人的資源や貸付対象以外の支援が必要な子育て世帯へのアウトリーチ方法に苦慮しているところである。

家庭環境が、子どもの発達などに影響するケースを多く見てきたため、子どもの成長を見るときに、家庭の状況の把握が不可欠になっている。

【家庭の環境について】

学童保育に通う子どもの保護者は、仕事と家事を両立する上で毎日忙しい生活を余儀なくされている。時間的にも心身的にも保護者に余裕がなくなっており、保護者が子どもと向き合って会話する時間が少なく、関わりがあったとしても、保護者からの叱責や子どもへの要望が多くなってしまっていることがある。子どもは家族で過ごす時間より、ゲームやYouTubeで過ごす時間が多いようで、そのような環境の子は特に気持ちに常に落ち着かず、もっと自分を見てもらいたいという気持ちにさいなまれているように見え、学童保育でそのようなサインを出す子がいる現状がある。保護者にゆとりがない環境が心配である。

【こども・若者の意見を聞く機会について】

家庭や学校では出せない姿を学童保育で出す子どもが多くいる。習い事のことや友達関係のことなどを相談しづらかったり、そういう姿を保護者や学校の先生に見せたくない心境があるように思われる。保護者や学校の先生に「心配されたくない」「いろいろ聞かれても結局最後は自分が悪いと言われる」と思っている子がいる。学童保育の場でも同じように「支援員はわかってくれない」と子どもが感じ、ストレスになるケースがある。一人ひとりの子どもの声に丁寧に耳を傾けて、子どもの最善の利益について周りの大人が考えることが重要であると感じている。「どうせ話をきいてもらえない」などと感じている子どもたちから、不安や承認欲求のサインが多くみられることが気になる。

相談支援を行う上で、子ども、家族、支援者、それぞれに複合的な問題（病気、貧困、居場所、支援力など）を抱えていることが多く、それが、ひきこもり、虐待、犯罪につながっている。対応するためには、こどもだけではなく、総合的な相談窓口と重層的な支援体制が必要となっている。

具体的な事例等

子どもたちの抱える困難は、その子どもを取り巻く大人たちの困難でもある。子育て支援が進む中「子育てするための支援」は「子育てをしなくてもいい支援」という側面を生み、それが不安定な家庭環境や子どもたちの不安へとつながっているように思う。今後は様々な子育て支援施策とともに、保護者達が生きていくのに必要な子育ての楽しさや喜びを感じられるような仕組みを考えていく必要があると思う。「子育て=母親」という時代は終わり、これからますます地域ぐるみの子育てが求められ、子育てを支える社会の構築が不可欠だと考えている。

若者と大人が話をする場がない。

【不登校について】

最近昔に比べて学校に行かなくてもいいという雰囲気が出てきているが、以前播磨町でホームスクーリングをしている親子が学校側の認識や配慮が足りないと言っていた。学校側は学校に行くことを前提とし、行きたくない子をどうやって行けるようにするか、というようなことばかり言われたそう。しかし、その子は学校に行かない選択をただけであり、思いにズレがあるように思った。学校でなくても学ぶ機会はあるはずであり、学校だけがすべてではないと思うので、認識を学校側も共有しておくべきだと思う。

【居場所について】

ひきこもりや不登校の子どもの居場所は出来つつあるが、基本として保護者が積極的に動いていないと、子どもだけでは行きづらい雰囲気もある。保護者が関与しなくても子どもの意思だけで通えるような居場所も必要だと考える。例えば、名古屋市緑区のみどり児童館では、0歳から18歳までの子どもが自由に入ることができるような環境やスタッフがいるため、悩みなども相談しやすく、必要があればすぐに適切な支援を仲介することもあるそう。信頼関係を築きやすい環境があれば子どもの悩みや課題に気づきやすいという点もあると思う。何気ない会話の中で、本人すらも気づいていない問題に気づける大人と居場所が播磨町にもできたらいいと思っている。

【1】実は水面下でしんどい思いを抱えている人は多いと活動の中で色々な人とお話をしていると思う。

【2・3・5・6・7】噂話程度に話を聴くことがあっても、このような課題を実際に抱えている方と実際に知り合う機会があまりない。出会わなければ知る機会もないため、それが実は課題。

【4】近年、町内に色々な居場所が出来つつあり、良い流れだと感じている。同時に、ボランティアベースで活動している場合がほとんどで、自分も含め、今後も継続のためのエネルギーが確保できるだろうかという事は常に考えている。

【8】子どもも自体が「犯罪にあっている」という自覚がなければ発覚が遅れる。トラブルに巻き込まれたときの相談先、性教育など、知らないことが問題。

【9】そもそも若者に情報が伝わりにくいことが課題。

実際に起こっているような上記のような問題が、なかなか見えてこないところ。本当に困っている人たちは、自ら発信したりできないように思う。また、各分野でのスペシャリストが各所において問題解決に当たっているのだと思う、縦割りではなく、インクルーシブに問題を共有、解決する場があったらいいと感じる。

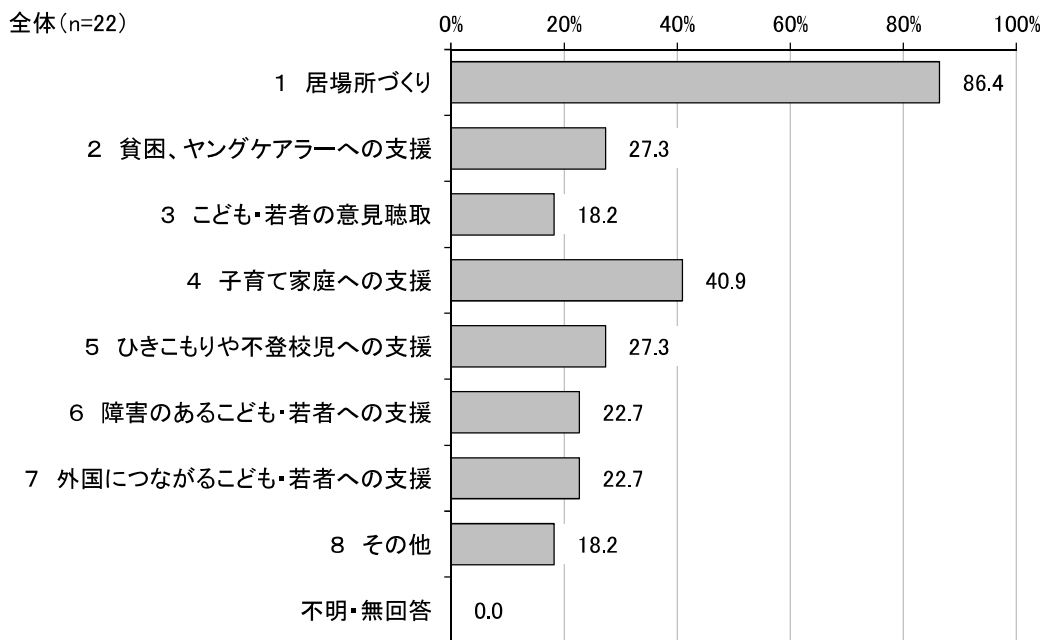
すべての家庭に当てはまるとは思いませんが、大半の家庭では虐待・不登校等は家庭の貧困から生まれてくるのではないかと感じる。また、子どもの障がいではなく、障がいを持っている親の問題が大きい。

学校生活を送るにあたり、ベースとなる生活の基盤がもろく不安定なケースも多い。学校だけでは支えきれないケースが多い。不登校やヤングケアラーなど、地域のネットワーク、居場所、子ども食堂など多岐にわたるシステムがほしい。

具体的な事例等
保護者の判断により登校できていない生徒がいる。まずは学校との関係構築ということで時間がかかっている。また、様々な要因による複合的な問題に対して、保護者、学校、福祉それぞれの視点から見たとき、要因と考えられるポイントにずれが生じて、解消に向けてのアプローチの足並みがそろいづらい。
父親の育児参加。父親同士のコミュニティ。

問3 現在、下記の内容に関して取り組んでいることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「居場所づくり」が最も多く、次いで「子育て家庭への支援」となっています。



その他回答
一時預かりの機会提供、リフレッシュや学びの場の提供
食農体験活動
学習支援
コミュニティ食堂

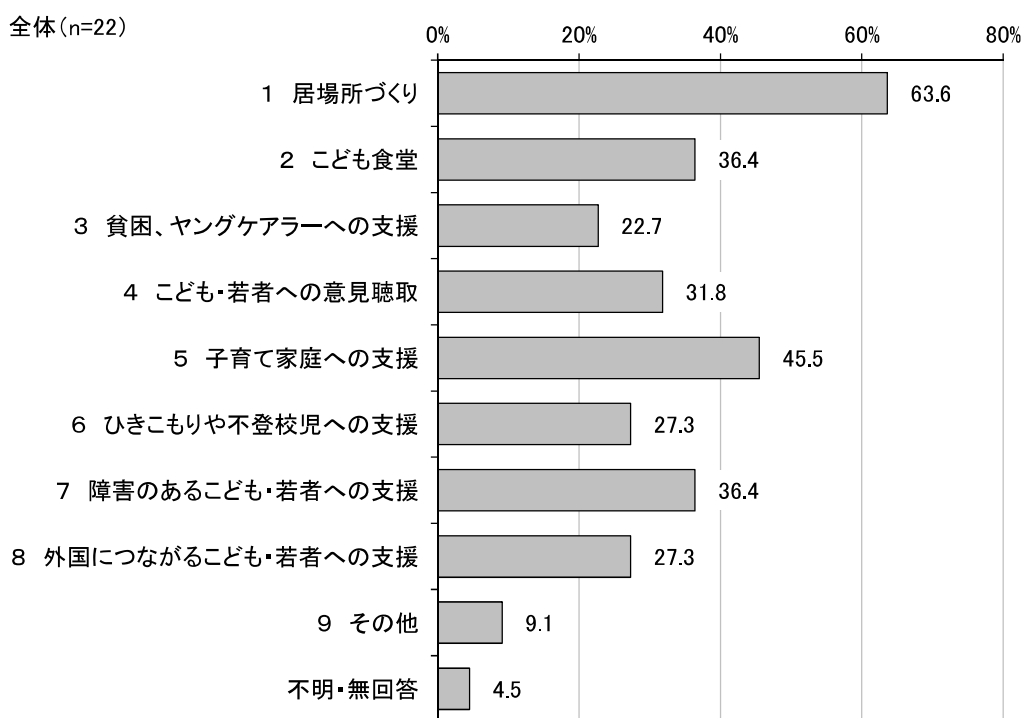
具体的な取り組み
町内の公共施設で「託児付きイベント」を開催したり、子育て世代のリフレッシュや学びの場を提供し、居場所づくりにもつながっている。買い物時等の託児サポートも実施。また、SNS等を使ってアンケートを実施し、直接的な声を聞きながら活動を改善したり、外国籍の子どもも分け隔てなく受け入れる体制にしている（実際の利用者はほとんどいない）。
町内の運動施設でも託児を実施し、運動による発散や若者の健康増進も狙っている。
空き家を活用した一時預かりも毎週実施し、いつでも気軽に子どもを預けられる場を提供。
これらの活動全般が「子育て家庭への支援」になっていると考えている。

具体的な取り組み
<p>【1】月2回のコミセンみんなの居場所を開催。</p> <p>【8】週1回学習教室開催。</p>
<p>コミセンサテライトを通じて実施している。</p>
<p>居場所づくりとして事業を実施しているわけではないが、当クラブの事業に不登校児や支援学級在籍の子が参加していることで、結果的にそういった子の居場所を提供している。</p>
<p>図書館でできることといえば居場所を提供することかと考える。</p>
<p>フリースペースの開設。オープンミーティング「おしゃべり場」に大人に混じって小学生も参加。子育て世代が利用しやすいよう、キッズスペースの工夫。外国人の貸館利用があるときは英語表記の案内を掲示。</p>
<p>民児協（民生委員・児童委員協議会）として、高齢者、障がい者、児童、母子全般の見守り支援に取り組んでいる。各委員が登下校時の見守り、散歩時、買い物時での「ながら見守り」を実施。</p>
<p>【1】子どもや子育て世帯、若者に特化したものではないが、地域の居場所を運営している。また運営したいという方を支援することで年齢や性別、また障がいの有無に関わらない居場所づくりに間接的に取り組んでいるところである。</p> <p>【2】食糧支援や資金の貸付という手段を通じて、件数は限られるが、取り組んでいるところ。</p>
<p>【1】対象の年齢が低いため、親子を対象とした居場所づくりとして、おやさろんの開放をしている。</p> <p>【4】子育て支援センターとして運営中。</p>
<p>【1】小学生対象の講座、イベントの充実、放課後の受け入れなど。</p> <p>【4】子育て支援センターとして運営中。</p> <p>【6・7】具体的な支援ではないが、受け入れはしている。</p>
<p>【居場所づくり】</p> <p>学童保育はひとつの居場所づくりである。子どもが安心してここに通えて「幸せだな」と感じられるように支援員は生活づくりを行っている。学童保育に通っていない子どもが放課後校庭に来て遊ぶ様子が見受けられることも多く、学童の子がその子たちと校庭で遊ぶこともある。地域で子どもの放課後を見守るという点で、学童保育は役割を果たしていることもあると感じている。</p> <p>【子育て家庭への支援】</p> <p>保護者は「子どもにもっと勉強してもらいたい。スポーツに励んでももらいたい。学校生活を充実してもらいたい。」などの願いを持っているが、子どもはその思いとはかけ離れた行動をとることがあり、保護者からすると、それらの行動に直面することで子育てに悩まれるケースがある。学童保育で保護者と関わる上で、保護者から支援員が相談を受けたり、学童保育でおきる子ども同士のトラブルについて、支援員から保護者へお伝えすることがある。その時に保護者と支援員は一緒になって問題を解決に導く方法を探るスタンスを心がける。保護者の子どもへの願いを支援員も共有しながら、子ども自身の願いや成長する姿を共に見守る支援者として保護者に寄り添うことを大切にしている。</p>
<p>福祉会館2階フリースペースを居場所として様々な団体に活用してもらっている。</p> <p>総合相談窓口として、生活困窮や引きこもりの相談を継続的に実施。</p> <p>障害者基幹相談支援センターとして、障がいのある子ども・若者・その家族への相談支援を継続的に実施。</p>
<p>小学生の放課後の居場所づくりとして「播磨町放課後子ども教室みんなでアソビバ!」、また家庭教育支援として「播磨町家庭教育支援プログラム実行委員会」で「みんなで学校ごっこ」「マチナカ・クエスト」等、地域を巻き込んだイベントを開催している。不登校対策の一つである「コミセンサテライト」にも参加している。</p>

具体的な取り組み
障がい者のグループホームで働いている。
【1】2021年10月より、毎週金曜日に福祉会館2階フリースペースに居場所を開いている。誰でもふらっと立ち寄ることができ、自分のペースで過ごしながらゆるく他者と交流をすることで、知らず知らず固定化していた観念などに自然と気付いて肩の力が抜けるような場になるように意識して活動している。
ファーストステップとして、居場所を開設し、そこからいろいろな問題をすくいあげることができたらと思っている。第二段階として、各種の問題に自分たちがどのようにアプローチできるかを住民の皆様と共に考え、行動していただきたい。
現在、福祉会館で母子家庭等（困窮者）にお米の支援をしている。困りごとがあれば、福祉会館ですぐに相談できるようにしている。
スクールソーシャルワーカーとして、学校、家庭、行政と連携し、必要な支援を提供できるようにつないでいる。不登校なら、サテライトやふれあいルーム他、居場所を提供、つきそいや保護者との面談、各関係機関の共有のため調整などをおこなっている。
ひきこもりの生徒に対しては、お迎えを実施し、本人が安心して登校できる環境を整えている。また、外国につながるこどもに対しては、就学支援の案内を行った。
父子で過ごす場づくり。母親の一人時間の確保。 家庭でもできる遊びの提供（あそび歌など）。 同世代の子の親のコミュニティづくり。

問4 今後、子ども・若者への支援に関して、取り組みたいことはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

「居場所づくり」が最も多く、次いで「子育て家庭への支援」となっています。



その他回答
フードバンク

具体的な取り組み
現状実施できている取り組みについては、引き続き実施していきたい。加えて、外国籍の子どもや障がいを抱える子どももきちんと預かれるような体制（託児スタッフの教育や資格取得の促進、専門的知識を有する人材の確保）も取り組みたい。
乳幼児の預かりは午前中がメインとなるので、午後は広く小学生以上の子どもを受け入れられるような「居場所」または「学習支援」の場づくりもしていきたいと考えている（スタッフの中には教員免許保持者も複数人いる）。それにより、下校後の子どもたちだけでなく、学校へ行きづらい子どもたちのサポートができる場としても機能すればよいと考えている。
子ども食堂について関心のある方々をつなごうとしている。
自主事業としての支援事業は難しいと思うが、他団体と協働で行うことは可能。
図書館は誰もが利用できる場所であることを色々な行事を通してまずは利用してもらおう。図書館では障がいの就労実習の受け入れを行っており、これから働く方、再就職を目指す方の職場体験の場を提供している。就労支援施設からは受け入れ先が少ないと聞いているため、引き続き就労実習を続けたいと思っている。直接的な支援は難しくても、必要な資料、図書を用意することはできるため、外国語で書かれた絵本や図書が必要であるようなら準備していきたいと思う。
小学生対象の企画として「夏休み子ども教室」「子どもいきいき体験隊」等の企画を進めている。子ども食堂とは異なるかもしれないが、喫茶コーナーを活かした子ども向けの食事提供などを検討したい。

具体的な取り組み
2か所ある子育て支援センターの子育てボランティア活動に参加。こども食堂の開設も考えて、当時明石へ見学、指導を受けやる気十分も、行政はあまり乗り気ではなく、断ち切れた。
当会は地域福祉を推進する団体として、『地域みんなのしあわせ』が向上するような住民主体の活動を支援することが目的であるものの、子ども・若者との関わりが薄かったのが現状である。今後は、子ども・若者との関わりを高めることで、その家族を含めた『地域みんなのしあわせ』が向上するよう、まずは意見聴取から取り組みたい。
現在行っている、おやさろんの開放、子育て支援講座の開催などを実施し、親子の居場所づくり、子ども同士、親同士のつながりをつくる支援、相談事業などを充実させたい。
【4以外】現在取り組んでいるので、引き続き継続する。 【4】については、事業の中で意見を吸い上げ、反映できるように取り組んでいきたい。
学童保育で子どもが意見や声を支援員に話をしてくれることがあります。子どもは「宿題が嫌だ」とか「もっと遊ぶ時間が欲しい」「家で好きなだけゲームをしたい」という思いを持っています。「それは無理だ」と大人が感じることで、子どもの意見として丁寧に扱い、議論できる場が学童保育の生活でも実現できたらいいと感じた。
引き続き活動を実施、充実させていく。
【1・5・6】現在の活動をさらに地域に広げ、内容の充実を図りたいと思っている。それにより障がいのある子どもたちへの支援へとつながることも期待している。子ども食堂に関しては、単発的な活動ではなく、継続的に開催し「必要のある子どもたちに必要な支援」が大切だと思う。今の活動を通して培った「地域のつながり」の活動として、取り組みたいとは思っている。
discord（通話アプリ）でコミュニティを今後やりたい。
<p>【居場所づくり】</p> <p>現在のこのこではプレーパークを年に数回開催しているが、活動を始めたばかりのため、親子での参加に限定している。この活動が軌道に乗り出し、一緒に活動してくれるメンバーも増えたら、週一回、無料、自由参加、自由解散、子供のみ参加OKの形で開催したい。この形を目指す理由は、親と一緒にいけない子どもでも遊びに行ける選択肢としてありたいため。これが本来目指すべきプレーパークの形となる。</p> <p>【こども食堂】</p> <p>このこでは畑で野菜を作る活動も開催。その大きな目的は親子での食農体験で、野菜を作る過程を知ること、採れたての野菜の美味しさを感じることで、畑をされている地域の方との交流などである。参加者を親子に限定しているので一般的なこども食堂の目的と違うかもしれないが、地域のつながりの中で豊かな人間性や社会性を学ぶことはできる活動だと思う。</p> <p>先日「夏野菜の収穫祭」という会を開催し、親子で畑のトウモロコシをもらったり、小玉スイカをその場で食べ、その後野添コミセン調理室に移動して簡単な調理をして採れたての野菜を食べてもらった。身近に農家さんや畑をしている人がいなければ普段味わうことができない、採れたてを食べる貴重な体験になり、参加者に美味しかったと言ってもらえ、今後も同じような会を開いていきたいと考えている。</p>
居場所づくり、こども食堂、子育て家庭への支援、不登校児への支援、この4つに関してはこれまでの活動で、ゆるくやってきたこと。今後もこのペースでやっていけたらと思っている。
今はまだ力が及ばず見えてきていない（存在を確認できていない）ので、今後そのような方、ご家族と接点を持つことができたなら、地域のお節介お婆さんのような存在として、何かを与えることはできないかもしれないが、傾聴し、寄り添える存在になりたいと思う。

具体的な取り組み
播磨町は、居場所、子ども食堂等は他の町村に比べ、私が思う所ととても多く、住民の方々が頑張っている。
子どもの声を聞く機会を持てるよう、学校で声をかけたり、担任、学校と連携して家庭へ介入していけるよう、様々な機関と共有、つないでいく役目を担っている。
子どもの居場所づくりとして、全国ではこども食堂などが活用されているが、播磨町では設置されていないのが現状である。子どもが気軽に訪れて自分の話ができる場所づくりが必要だと考える。

問5 問4で回答した活動について、取り組みたいが取り組めていない理由があれば教えてください。また、行政等からどのような支援があれば活動できると思いますか。

取り組めてない理由
【1】子ども・若者をターゲットにした福祉的な事業では、収入源が乏しいため人件費の捻出が困難。スタッフの教育や育成（研修）、資格取得等のサポートも難しい。
【2】子どもや若者の居場所をつくるための「場所」の確保が困難。
【3】外国の子どもや障がいを持つ子どもについては、当事者の遠慮などもあり普及しないし、あまり多くの需要があっても応じきれない。
対象とすべき子どもたちをどう考えるべきか議論が不十分。
指定管理者として管理運営が始まったばかりで、全体の課題として取組中。
子ども食堂については、やる気、校区ごとの開設が必要、場所、器財は確保、食材は何とかなるが、長期活動出来る人材確保。1期で委員をやめていく人が多すぎる。
主に高齢者を対象とした事業を展開してきており、子ども・若者に対する事業の実施の優先順位が相対的に低かった。また取り組むにあたってノウハウ、人的資源、財源の課題等があり積極的に取り組めなかった経緯がある。
最近まで、コロナ禍で小学生の受け入れをストップしていたため。
学童保育の大規模化により支援員が子どもたち一人ひとりの思いや声に耳を傾けられていない現状がある。学校や家庭の悩みや友達関係に関すること、うれしかった思いや相談したいことなど、子どもが「聴いてほしい」と思っていることが支援員として聴けない状況がある。大規模化になると子ども同士のトラブルや保護者対応、安全対策により多くの時間がとられてしまう。
ひきこもり相談をはじめ、あらゆる相談において、時に当事者への継続的なアウトリーチを必要とする相談支援の展開。医療的ケアの必要な子どもや若者の相談対応と支援の展開。精神障がい者を家族に持つ子どもの相談対応と支援の展開。
主として、マンパワーの問題が理由。医療機関及び教育機関との連携。
子ども食堂に関しては、播磨町での必要性や、必要な子どもたちへの支援になる得るかどうか等、疑問が残り、未だに取り組めていないのが現状です。
仕事が忙しい。
実際にこども食堂として開催できるかは多くの課題があると思っている。例えば、こどもだけの参加の場合責任はどうするか、衛生上の問題、目的とする主旨に沿って活動できているか等。この課題は行政や地域でカバーしていくのが理想だと思うが、まずは先陣を切って進めていける主宰者が出てきてくれることが今一番必要なことだと思う。その主宰者に私自身なりたいが、のこのこの活動で手一杯なので、今は「収穫祭」という形でしか開催できていないというのが現状である。

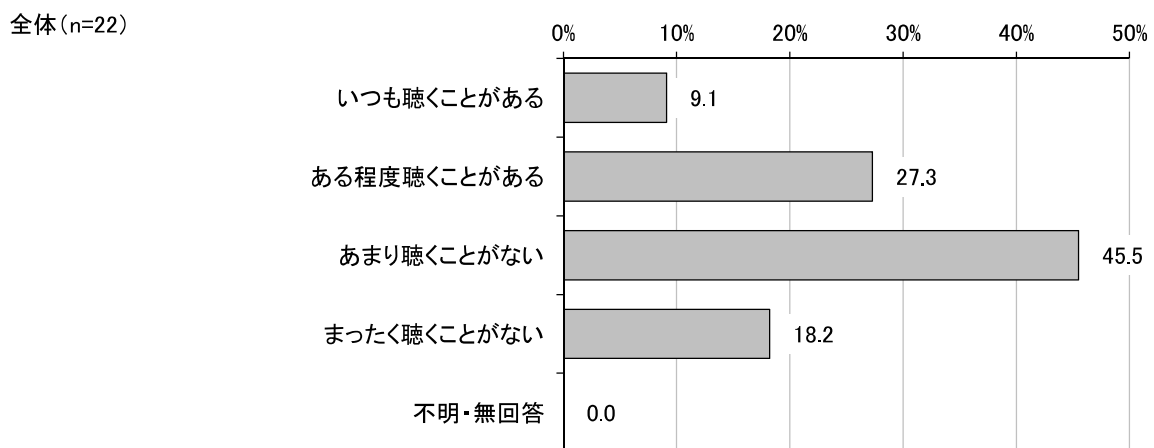
取り組めてない理由
ニーズがいまのところは見えていない。
播磨町パートナー事業に参加し、居場所（みんなのおうち）は3年目になり、沢山の方に利用していただいている。昨年より、子どもを対象とした試食会も年二度開催し喜んでいただいた。しかし、当初の目的としての、ひきこもり等（若い世代）に対して認知ができておらず、これからも取り組みが必要だと思っている。
課題が多すぎて、すべてにおいて落ち着いていない。人の補充は、播磨町は迅速にいただいていると思うが、（官民の）ネットワークが機能されていない面もある。
場所と時間と人の確保が困難であるため。性善説だけでは通らず、ある程度の報酬の確保も必要である。
他方面の講師とコラボして、いろいろな体験をしていくことを進めたいが、十分な講師料がなく、依頼が難しい。

必要な支援
<p>【1】人件費や運営に必要な経費を拠出してほしい。アイデアやマンパワーがあっても、お金がなければ有意義な活動が継続できない。支える側も若者が多いため、ボランティアでは維持できない（有能な人たちが外へ働きに出てしまう）。</p> <p>【2】町内の既存施設や空き家等、管理運営を任せてもらえる「場所」と必要経費（水光熱費等）の負担をお願いしたい。</p> <p>【3】町内で活動している団体について広く知ってもらえるような取り組みをしてほしい。広報誌で特集するとか、窓口で相談があった場合は民間の活動団体につなぐことも検討してほしい。また、外国の子どもについては、日本語教室にも託児を付ける等の「外国籍の親の支援」を視野に検討して頂きたい。</p>
全国の子ども食堂の実態について知りたい。
子ども、特に中・高・大学生にはどんどん来てもらいたいため、フリースペースがいつでも利用できることを多方面からPRしたいので、ご支援をお願いしたい。
地域福祉アドバイザーの配置等により、一人体制であった地域支援への人的資源が充実してきているところである。今後も引き続き、人的資源確保のための財政面での継続的な支援をお願いしたい。
学童保育の分割。現在町内すべての学童保育は定員数を超える児童が入所している。子どもが健やかに育つ環境としての学童保育の一つの支援単位は40人未満であると国の基準で定められている。40人がそれぞれの施設で安心して生活するためには新たな専用施設が必要であると考えられる。
児童館のように、いつでも子どもたち（不登校も含む）が来られる場所があり、そこで土日及び学校長期休業日等の昼食を提供するという形であれば、子ども食堂の役割がある程度果たせるのではないかと思う。まずは、子どもたちの居場所となる場所の経費等の支援を行っていただきたい。
実際に活動するのは地域住民のできるため、行政にはミーティングへの参加や、チームを作る、広報など協力してもらえたら、こども食堂の開催は可能だと思う。
現在、福祉会館の施設を無償で使わせて頂いていることが最大の支援と感じている。そういった活動をしていることを行政職員に知ってもらい、この居場所とマッチしそうな町民と出会ったときに、こんな場所があると伝えていただけたらと思う。
支援が必要な方とつなげてほしい。

必要な支援
民間の力をもっと導入して、託していくようにしてほしい。保育園の送迎サポート、子ども食堂運営サポート、夜間の不登校生徒の居場所。
ニーズの把握（各中学校区において）。食事を安定してとることができる場所、家に居づらい子どもにとっての場所、学校外でも勉強を見てもらえる場所など、一言にこどもの居場所といっても適する形が異なるため。
予算として、活動費（講師料）を増やす。

問6 活動を通じて、こども・若者から、活動への意見や町への要望等、生の声を聴く機会がありますか。(〇は1つ)

「あまり聴くことがない」が最も多く、次いで「ある程度聴くことがある」となっています。



問7 問6で、「1 いつも聴くことがある」「2 ある程度聴くことがある」と回答した方におたずねします。意見はどのような内容が多いですか。(具体的な内容)

具体的な意見内容
<p>保護者自身の疾病や通院時など、急な事態にも預かり対応してほしい。</p> <p>「託児のみ」は他市町にもあるが、イベントなどのリフレッシュメニューがセットになったサービスは他にはない。</p> <p>親子イベントにも託児をつけてもらえるため、小さな弟妹がいても上の兄妹との時間を持てるのが良い。</p> <p>播磨保育園の一時預かりは予約が取れない。</p> <p>ファミリーサポート事業は事前申請、面談などのハードルが多く、利用しづらい。同じ提供会員ばかりに依頼がいき、登録者を有効に活用していない。登録者の高齢化などにより、そもそもうまく機能していない。月齢や食事提供のルールなど制約は多い。</p> <p>イベント参加費をなるべく安くしてほしい（ワンコインが理想）。</p> <p>託児スタッフに「ボランティア」を強いるのは良くない（ボランティアで行う内容とは思えない）等。</p>
<p>フリーWi-Fiは助かる。静かで集中できる場所が欲しい（小学生が騒がしくないところ）。</p>
<p>子ども達の学校生活、生徒同士の喧嘩、いじめ、先生の対応、親との関わりについて、孫と話をする。大人より複雑な悩みを持っている。気付いた時点で解決することが大切と思う。</p>
<p>センター利用の小学生から、小学生の利用時間、利用可能日を増やしてほしいという声がある。</p>
<p>子どもが自由に入出りできるような児童館のような遊び場、居場所がほしい。一つのコミセンだけでそのような役割があると聞いたことがあるが、制限が多く一般的な児童館のような形にはできていないとも聞いた。ボール遊びを禁止にしている公園が多いので遊びづらい。</p>
<p>小学校、中学校に対しての意見。ボランティア活動の中での悩み事、トラブル。</p>
<p>楽しい、もっと行きたい。</p>

問8 さらなるこども施策の充実のために、播磨町が取り組むべきと考える支援・制度・連携等について、ご意見・ご要望がございましたらご自由にご記入ください。

意見
<p>行政だけでがんばらないで、民間の力を上手に活用して欲しい。町内で活動する民間団体の様子を視察に行くことも必要ではないか。協働宣言を出してはいるが官民連携が進んでいない。官民連携のプロジェクトを組むなどして、民間団体と本気で話し合い、町政を変えるための人材を確保してほしい。片手間で「協働」と言わないで欲しい。</p>
<p>保育園（のような毎日・長時間の預かりの場）を増やすことだけが求められているわけではない。働く人の支援も大切だが、家庭にいて、我が子の成長のために力を注いでいる「主婦」層への支援としては、時々でも短時間でも子どもを預けられる環境は重要。また、働きたい人と言っても多様で、フルタイム勤務を希望する人ばかりではないので、短時間（4～5時間、週2～3日）預けられれば良いという人も多いと思う。入園の選定基準がフルタイム優先になっているため、働きたいのに預けられない人は多い。</p>
<p>家庭的保育事業のような小規模の認可保育園を早く稼働できる体制にしてほしい。小規模な事業の方が準備もしやすく、家庭的な環境での保育は子どもたちの情緒の安定や愛着の形成等にも効果的と考える。</p>
<p>高齢者の「足」だけでなく、子育て世代の「足」についても考えてほしい。特に、運転免許を持たない女性や、車を夫が通勤に使用する等で、日中はベビーカーを押しながらしか移動できない人もいる。</p>

意見
<p>子育て世帯に現金を蒔く政策ではなく、必要な人がサービスを使いやすくすることにお金を使ってほしい。例えば、民間団体が提供するサービスでも利用料に補助を出すとか「体験無料チケット」を発行する等すれば、利用者も助かるし、活動団体自体も助かる。母子手帳交付時や転入時に配布してはどうか。</p>
<p>なるべく町内の人材（活動団体）を登用してほしい。播磨町の学童保育を高砂市の団体が運営するなど、町内の行政サービスが町外の人材によって成り立つ構造は残念。</p>
<p>播磨町は多子世帯が多い印象のため、少子化社会の中貴重な町だと思う。子どもをたくさん産んで育てても大丈夫！となるような多子世帯支援にも力を入れてほしい。</p> <p>若者の意見を直接「行政（町長）」が聴取する機会を。若者が町政に関心を持ち意見を反映させたいと思わなければ、町は衰退していくような気がする。そのような機会創出のために、当団体が協力する。このような意見聴取を今後のアクションに必ずつなげて下さることを願っている。</p>
<p>子どものために活動している諸団体・個人がつながり協力し合えるような場を設けてほしい。</p> <p>コミセン（コミュニティ委員会）に補助金があれば活用したい。</p>
<p>中央公民館という1つの拠点だけでは実現性や発展性に乏しいため、学校・地域・団体（ボランティア含む）等との連携をしていきたいと考えている。ご利用いただく際に感じることや提案があれば、意見をいただきたい。</p>
<p>子どもや若者がいる世帯だけではなく、地域には複合的な課題を抱える世帯が増加している。また戻りつつあるとはいえ、コロナ禍により人と人、人と地域のつながりが希薄化したことにより、社会的な孤立も深刻化していると思う。このような状況の中、子どもたちが安心して生活できる地域は誰にとっても安心して生活できる地域であり、そのためには個別の制度的な施策を充実させることも必要だが、制度外のインフォーマルな福祉、いわゆる『地域みんなによる地域の福祉』と制度福祉が連動し、地域を丸ごと支える包括的な支援体制を構築していくことが重要であると思う。</p>
<p>子どもの成長が家庭の環境に左右される現状を目にすることがよくある。親になり切れていない、育てる力が弱い親もいる。子どもを守り育てるためにも、親を育てる取り組みができればと思う。</p>
<p>子どもたちが、安心、安全に遊ぶことができる場の確保(公園の整備や居場所事業づくりなど)。 見守りカメラの設置。</p>
<p>子どもたちが自由に遊べる環境づくり。今も実施されている点も多いと思うが、近隣の公園や広場、コミセンや小学校の校庭でもっと子どもたちが遊びやすい環境がさらに増えればいいと思う。それには安全面なども考慮し、地域で子どもを見守る連携を強くしていく必要があると感じている。子どもが地域で育つために、地域に関わる人や団体がこどもをまんなかにおいた施策や考えを共通認識できる機会があればよいと感じた。</p>
<p>児童発達支援センターの設置と教育・福祉・医療の連携。若者の社会参加と就労支援の充実。</p>
<p>播磨町は前町長の時代から子育て支援が充実している町だと思う。子育ては乳幼児期だけでなく、我が子が社会へ巣立つまでの長い道のり。それぞれの時期にそれぞれの悩みや苦しみを抱えながら、日々奮闘されている保護者も多くいる。子どもたちの居場所が、子どもだけではなく、子どもたちを育てる大人たちの居場所でもあり、子どもの年齢を問わず、気軽に相談できる場であることを願っている。</p>
<p>子どもたちがネット上でつながる場に播磨町の大人も参加しないといけないと感じる。メタバースやDAO（分散型自立組織）の理解が無いため取り組めていない。</p>

意見

同じまちづくりパートナー事業を受けている団体の代表が、3年の採択で終了したあと4年目以降はどうやって活動していけばいいのか、播磨町に貢献できるように活動を続けて行きたいが、大きな利益が出るような活動ではないので、町からの支援が必要だと言っていた。私たちも来年同じような課題が出てくるので、行政と協働で引き続き活動していきたいがどこまでそれが可能なのか一度話し合いたい。

せっかくの活動も町民に伝わらなければ意味がないのでその繋ぎ役をして頂けたらありがたい。町内の子どもに関する活動の把握、整理をして、その活動がどんなシーンで活躍できるかを考えた上で、それが伝わりやすいような案内をして頂く。例えば、託児や子育て世代を受け入れられる居場所などの情報は、出産してからでは情報を集める余力がないので、母子手帳交付のときに伝えられると良いと思う。ただ伝えるだけではなく「こういう事が想定されるから、こういう団体と今のうちに繋がっておくと安心」とイメージが湧くような伝え方だと良い。子どもが関係する活動やイベントなどは、学校を通してこども達に伝わればありがたい。

また、活動を持続していくために施設の無償提供や関係部署との連携などの支援が簡易な仕組みで出来ると良いと思う。まちづくりパートナー制度を利用すれば良いのかもしれないが、書類提出や発表などが負担で腰が上がらないという人もいると思う。昨今、生活していく上で余力がない人の方が多いため、精神的に活動を行える人は少ないと思うが、ちょっとしたお手伝いなら参加したいという方はある程度いると思うので、そういう方と様々な活動がうまく繋がる仕組みがあれば継続もしていきやすくなるのではと思う。

各団体で横のつながりを持つことを良いと思われるのかどうか分からないが、播磨町で活動されている各団体同士でのやり取りする場や勉強会などがあつたらいいと思う。よく稲美町の方と話す機会があるが、官も民もすごく積極的で、皆さんが熱意をもってされている印象。播磨町でもいろいろな自治体の良いモデルをどんどん取り入れていけたらと思う。

子どもたちが健やかに育つうえで、一番大切なことは家庭環境にあると思う。困窮であったり、家族が病気（肢体・精神疾患）であったりすれば、子どもたちにも何らかの形で影響が出てくるのではないかと思う（あくまで個人の考えだが）。子どもたちの異変に気づいた時には、そのことを早く学校、地域等が見つけ役場等に連絡し、押しつけの支援の介入ではなく自然な流れで支援に入れる仕組みがあればいいと思う。

民間に委託して、補助金でサポートする形で、不登校支援や、ヤングケアラー等含めた家庭支援のための子ども食堂の運営など。民間に委託して、子どもたちが運動の機会、お金のことや税金のこと、暮らしのことを学べるスクールの開催（費用無料）。

こども施策の充実のために、今回のようなヒアリング調査や、直接集う会もあれば、意見交流や新たなアイデアが生まれると思う。行政と、子育て関係の団体、親などが、もっと人と人レベルでつながっていくことを望む（播磨町という小さな町だからこそ）。